



## A I が親切をする？

小さな親切運動の広報誌に第49回「小さな親切」運動本部賞の作品が載っていましたので紹介しましょう。

「ちょっとした親切」 北九州市立洞北中学校1年 野田統希

近年 A I は飛躍的な進化を遂げ、人間の能力を上回る時代になってきている。将来、人間の仕事は A I に取って代われ、人間は何もしなくてよい時代が来ると言われている。しかし、A I がすべてにおいて人間を上回るわけではなく、苦手なこともある。それは、人の感情を正確に理解することだ。例えば「もう結構です」という言葉も、声の大きさや表情によって怒りや諦めなど何通りもの意味を持つ。人間同士の会話には一つという言葉でも意味が正反対になることがあるが、果たして A I がその違いを正確に判断できるだろうか。僕が中学校に入ったころ、母の車に乗っていたときのこと。渋滞中、脇道から入れず困っている車がいたが、誰も道を譲らなかった。母は速度を落とし、その車を入れてあげた。そして、「今譲った人がまた別のところで誰かに譲ればいいね」と言った。親切にされれば嬉しくなり、優しい気持ちが生まれる。その優しさが広がれば「親切の輪」となり、世の中はもっと素晴らしくなると思う。A I の自動運転車は正確にルールを守るが、母のように「譲る」判断はしないだろう。ルールを破ることは A I にとってはエラーであり、不良品とされる。しかし人間にとっては、そのエラーこそが思いやりのある優しい運転であり、人の心を温かくする。世界中の科学者が研究しても、人の気持ちを汲み取り、ちょっとした親切を実行できる A I は作れないと思う。僕には賢い A I を作る頭脳はないけれど、母のように「小さな親切」をすることならできる。「ちょっとした親切」はその場の空気を読み取り、相手も気持ちを正しく汲み取れる人間しかできない。これからは僕がこの親切の輪を広げ、思いやりあふれる優しい社会を作っていきたい。

(一部要約)

今では、多くの人が A I を利用して何かを調べたり、相談をされたりしたことがあるのではないのでしょうか。

私はパソコンとか、スマートフォンを扱うことは得意な方ではないのですが、時に興味本位で「悩み相談（例えば、こどものスマホ使用時間が長すぎる。どうしたら短くすることができるのでしょうか等）」をしてみるがあります。そうすると「なるほど」と思える模範的な答えが返ってきます。そのように、A I は何でも答えてくれるのです。

でも、その答えには、素直に納得できない味気なさを感じます。本当に、悩みに真剣に向き合ってくれているのだろうかと考えてしまいます。それは A I には、人間にはある感情がないからなのではないのでしょうか。近いうちに感情を持った A I も登場してくるかもしれませんが、まだそれは難しいようで、やはり人間に相談した方が納得できる答えがもらえるのではと思います。

A I が親切をすることができるようになるのでしょうか、感情を持たない A I には、無理でしょう。親切が世界に広がるようになるには、人間として、相手の気持ちを考える温かい心を持つことが大切なのだと考えさせられる作文でした。